

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 4 年 2 月 28 日

公表: 令和 4 年 3 月 10 日

事業所名 りずむ畑

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		
	2	職員の配置数は適切である	○	適切に配置しています	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		玄関には段差がありますが、都度丁寧に声を掛けて安全面に配慮しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○	毎日ミーティングを実施し、職員全員で情報の共有を行っています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○	保護者からの評価を職員で共有し改善に努めています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		現在第三者による外部評価は行っていません。必要に応じて外部評価については検討してまいります。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		初回時は保護者にアセスメントシートを記入していただくが、その後のアセスメントを明確に体系化していく必要があります
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		必要な項目を盛り込み作成しているが、今後いっそう精査した上で支援内容を設定していきます
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		意欲的に活動できるように考えてプログラムを組んでいます。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		療育前に療育内容の再確認を行っています
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援に対しての子どもたちの様子や気づいた点の振り返りを行い、次回の支援につながるよう情報共有をおこなっています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		今後必要に応じて、連携をとってまいります。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/			今年度は医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのあるお子さんは在籍していませんでした。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/			今年度は医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのあるお子さんは在籍していませんでした。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○				
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○				
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			今後必要に応じて、連携をとってまいります。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			感染症予防の観点から他の幼稚園や保育園等と交流は行っていません。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○			今後参加を検討してまいります。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳や送迎時で療育中の様子を保護者に伝え、子どもの発達常状況の共通理解につとめています。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている		○			現在実施しておりませんが今後検討してまいります。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時にご説明させていただいています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○			必要に応じてその都度行っておりますが定期的ではありません。今後定期的な実施を目指してまいります。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			感染症予防の観点から今年度は保護者会は中止しております。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			個人情報がある書類に関してはシュレッダー処分を行っています。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			必要に応じて、職員がわかりやすく説明するなどの配慮をしています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			感染症予防の観点から事業所独自の行事は実施しませんが、挨拶など日頃のやりとりの中で配慮心がけています

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		初回の面談時に児童票に記入していただき確認しています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	/	/		食物アレルギーのあるお子さんが在籍しておりませんでした。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書にあげ、職員間で共有するようにしています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			施設内で職員間の勉強会を実施しています。県の虐待防止研修会にも積極的に参加してまいります
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	/	/		身体拘束を行うお子さんは現在在籍しておりません。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。